

転校生なギャル「ス」はダークエルフ!? 1章

ク
ア
ト
□

■作品概要

△サークル▽

癒し庵もち猫（シナリオ／効果音／イラスト／音声編集…クアトロ）

△ジャンル／年齢指定▽

バイノーラル音声作品／全年齢

△作品ボリューム▽

80m 台詞文字数8,261文字

△舞台▽

現代／教室／ナナリーの部屋

■登場人物

△ヒロイン▽

名前 …ナナリー（見た目17歳／実年齢15歳）

人物 …聴き手のクラスに転校してきた謎のダークエルフ

ノリがよく気さくな性格／見た目が派手で所謂ギャル

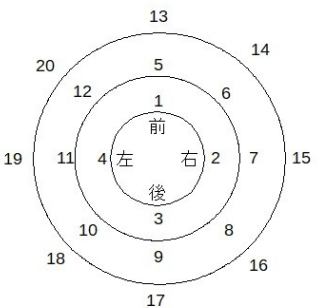
聴き手とは転校日の朝会っている

席は聴き手の隣り／闇の精霊の加護を得ている

趣味／特技…カラオケ／自撮り／写真加工アプリ／闇魔法

△聴き手▽

高校生 …ゲーム好きの男子（17歳）



△台詞位置の指定図▽

図はマイクとの距離を示しています
1～4は30cm
5～12は50cm
13～20は1mを想定しています
距離が取れない場合、
こちらの音量調整等に対応します

1..噂の転校生（聴き手の教室／朝）

（教室のドアを開閉する音）

（ナナリーの足音）

（ナナリーがチョークで黒板に名前を書く音）

（位置14／有声音）

（気だるそうに）

どうもー。

ナナリーです。

今日からよろしくー。

あー、はい、あそこの席ですね。

りようかい。

（ここまで気だるそうに）

（ナナリーの足音）

（位置5／有声音／小声）

あれ？

君、今朝の子…？

へえー、まさか一緒のクラスだったとはね。

こんな偶然もあるんだ。

まあこうなったのもなにかの縁っしょー。

あ、そうだ。

ウチの事、ナナっちって呼んでくれてイイかんねー。

んだよー、ノリわりいなあー。

隣の席なんだからさ、仲良くしようぜー。

なっ？

（ここで先生に注意される）

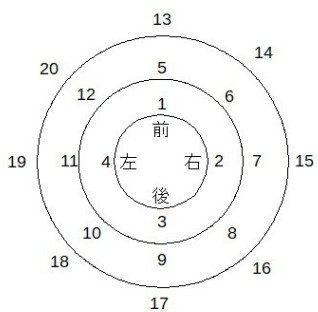
（位置5でマイクと反対を向きながら／有声音）

はーい、席に着きまーす。

（位置5／有声音／小声）

って事でー、よろしくー。

（ナナリーの足音）



(ナナリーが椅子に座る音)

2…転校生は人気者 (聴き手の教室／一限目が終わった後の休憩時間)

(クラスメイトにナナリーが囲まれている状況)

(位置7で14の方を向きながら／有声音)

ちよ、待てて…。

そんなに大勢で質問されたら、答えらんないってば…。

そんなに転校生が珍しいか？

そっか、そうなんだ。

あ、言っとくけど、耳はぜってー触るんじゃねえぞ？

触ったら許さねえから。

おう、分かりやいいんだよ。

あー、待て待て。

だから一斉に質問してくんなってば…。

(位置7／有声音／小声)

なあ、君…っ！

そう、君だよっ！

質問攻めにされてんだ…。

ちよっと助けてくんねえ…？

(聴き手が囲みを追っ払う)

(位置5／有声音／小声)

は…。

助かったわ…。

サンキュー♪

ったくよー、転校生が珍しいっつーのは分かるけどさ…、ナナっちはああいうの苦手…。

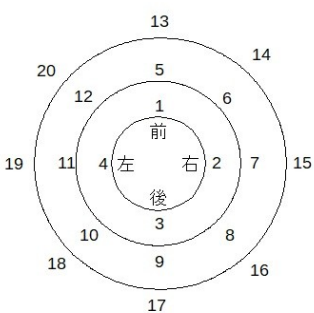
あ、意外だった？

まーねー。

見た目がこんなだからさ、普通だったら他のヤツらは寄って来ねえはずなんだけど…。

このクラスはモノ好きが多いんだな♪

君は？



ナナっちみたいなの、所謂ギャルは嫌い？
は？

それどころじゃない？

何が？

ダーク…エルフっぽい？

うっそ……。

(位置△／有声音／かなり小声)

君…、ナナっちの事、分かるの…？

マジか…。

やっべえじゃん…。

え、じゃあ髪の色、何色に見えてる…？

銀色…。

じゃ、じゃあ肌は…？

褐色…。

おいおいおい…、ガチでやべえじゃんか…。

え？

なんでって…。

なんでもなにも、君に幻覚作用が効いてないからじゃんっ！

ああ…、幻覚つつーのはほら…、えっーと…、つまりアレだ…。

ああもういいや…。

幻覚作用は、ナナっちの闇（やみ）魔法の効果なんだけど…、

何故か君には効いてねえ…、っばい…。

何で効いてねえのか、ナナっちにもよく分かんねー。

けど見た目がダークエルフに見えてるんなら、それが本来のナナっちの姿。

(位置△から△に移動しながら／有声音／小声)

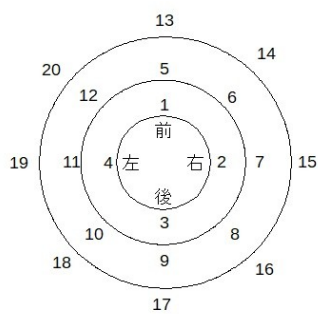
しっかし参ったな…。

(位置△／有声音／小声)

あ、もしかして、君も魔法が使えるとか…？

は？

魔法が使えるのは三十歳になってから…？



なんの話だよ…。

え、もしかして、この世界の人間って、歳を重ねれば魔法使えるようになるのか…？
例え？

なんだよ、ビビらせんなよ…。

でー？

なーんで君にはナナっちの魔法が効かないのか、

原因を突き止めないといけないんだけど？

そりゃそうじゃんつ。

ナナっちの闇魔法って、結構強力なんだかね？

それなのに効いてないっていうのは困る…。

ううん、大問題。

なんでって…。

あのさあ…、君って今、凄く冷静に会話してるけど、ナナっち、ダークエルフだぞ？

その所、忘れてない？

ゲームで…、見慣れてる…？

(納得した様に) ああ、そういう事…。

って、そうじゃねーよっ！

いくら見慣れてるからって、目の前に本物のダークエルフが居るんだぞっ？

もうちょっと慌てるっつーか…、怯えるっつーか…、あってもよくね？

は？

かわ…いい…？

(絶句) なっ……。

ばっ…、バツカじゃねーのっ？

君は人間、ナナっちはダークエルフ…。

つまり異種族なんだかねー！？

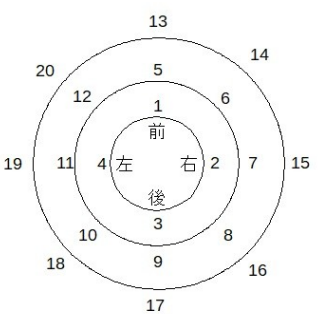
あー、そうか…。

平和な人間は知らないのか…。

えーっと、簡単に言うと、現代において、異種族との接触は禁忌って事。

要するに、ナナっちの正体がバレた今、すっげーやべえ状況下にあるってワケ…。

ふーん、じゃねえよっ！



なにのほんとしてんの？

どうしよう…、長（おさ）にバレたら、種族間で戦争…、何て事も有り得つぞ…。

そうなたらさ、人類は滅ぶかも知んねーんだからな？

大丈夫…？

なんで言い切れるのさ？

黙ってる…？

あのさ…、そう言われて、はいそうですかつ、とは行かない案件なの、分かってる？

ああ、もう時間か…。

（位置5から2へ移動しながら）

もうそろそろ休憩が終わるな…。

（位置2／有声音／かなり小声）

この話はあと。

んで、教室で話してイイ内容じゃねーから、放課後ナナっちの家（いえ）に来な。

今朝通学路で会ったって事は、多分家も近いはず。

ああ、大丈夫。

家に招いても、手出ししたりしないから。

そう、布告なしに手を出したりしたら、それこそ超大問題になつから…。

んじゃあそういう事で。

あ、ナナっちがダークエルフだって、ぜってー言うんじゃねえぞ？

さっき大丈夫って言ったよな？

おし、約束だぞっ！

3…転校生は耳が弱い（ナナリーの部屋／放課後の夕方）

（位置13／有声音）

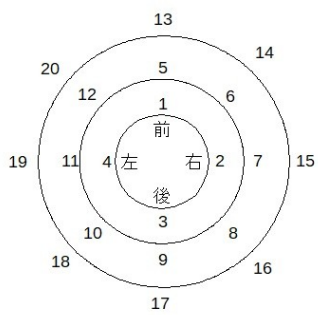
なーにそんなにキョロキョロしてんのさ？

はあ？

部屋が現代的？

（ため息）はあ…。

あのな、いくら何でも、ゲームに影響され過ぎだろ…。



ここは現代で、ゲームの中じゃないの。

(位置13で20の方向を向きながら／有声音)

パソコンもあるし、

(位置13で14の方向を向きながら／有声音)

テレビもある。

(ナナリーの足音)

それにほら、エアコンもっ！

これさー、アレルギー物質をやっつけてくれるんだよねー♪

へ？

あー…、ナナっち、花粉症持ちなんだわ…。

は？

うっせーなっ。

ダークエルフでもなるときゃなんのっ。

なっちゃったもんは仕方ねーだろうっ。

そっだよっ！

(恥ずかしそうに) 花粉の時期は…、医者に花粉症の薬もらってた…。

(位置7から5へ移動しながら／有声音)

あ、もしかして君さ、ナナっちの事、ちょっとバカにしてね？

(位置5／有声音)

そっこのム力つくんだけど？

ホントか？

もうバカにしない？

ふんっ、まあいいや…。

で、君にナナっちの闇魔法が効かない件についてなんだけど。

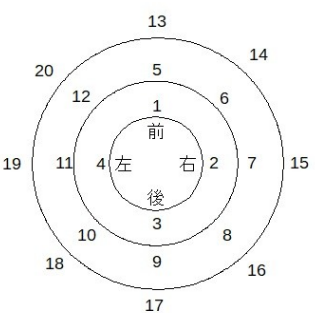
何か心当たりはないワケ？

そっか…、簡単に思い浮かぶなら苦労はしねえよな…。

そういうナナっちも、サッパリ分かんねー…。

だってさ、脆弱な人類に、ダークエルフの闇魔法が効かないなんて事例、過去にないもん。

(ナナリーの足音)



(独り言)

(位置5から2へ移動しながら／有声音／小声)

うーん…、参ったなー…。

(位置2／有声音／小声)

この事、長(おさ)に相談した方がいいか…？

(位置2から7へ移動しながら／有声音／小声)

いや…、でも待てよ…？

(位置7／有声音／小声)

この謎を突き止める事が出来たら、もしかすると長(おさ)に

認められるんじゃないか…？

そうなりゃ、この人間界での生活にも終止符を打てる…。

(ここまで独り言)

(位置7／有声音)

ああ、わりいわい。

あー、長(おさ)ってのは、その名の通り、ダークエルフの長(おさ)。

御年六百八十二(682)歳。

ダークエルフ族の最年長者(さいねんちようしゃ)だよ。

でな？

ナナっちは…、その…、ダークエルフの森を追放されたんだわ…。

あ、ちよつと待った。

理由は聞くな…。

思い出しただけでも気分悪くなっから…。

おう、察しがよくて助かる…。

で、森を追放されて、人間界へ降り立ったってワケ。

どうやって来たか？

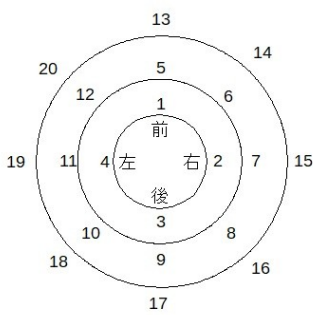
そんなの言う訳ねーじゃんつ。

言ったら人間や、それを耳にした他の種族が攻めてくつかもしんねーだろ？

いくら追放されたとは言え、裏切る訳にはいかねーの。

だから方法は言えない。

イイな？



オッケー。

話を戻すぞ。

(位置7から5へ移動しながら／有声音)

要するに、君に闇魔法が効かない理由。

(位置5／有声音)

その謎を解けば、森に戻れるんじゃないかって話。

だからさ、調査っつーか、研究っつーか、それに協力してくんねーかな？

(いよいよ即答される)

(素っ気なく) そっか、あんがと。

え？

マジでいいのか？

(位置5から2へ移動しながら／有声音／小声)

君さ…、魔法が効かない事に心当たりはないって言ったじゃん？

(位置2／有声音／かなり小声)

それ…、ガチ？

ホントかどうか怪しいな？

いくら何でも冷静すぎ。

(位置2から4へゆっくり移動しながら／有声音／小声)

その冷静さにこそ、何か裏があるんじゃないかって睨んでんだけど？

(位置4／有声音／小声)

ふーん。

やっぱり分かんない…、か…。

それがガチなのか、言えないのか、言わないだけなのか分かんねーけどさ、

協力はしてくれるんだな？

(位置4から1に移動しながら／有声音／かなり小声)

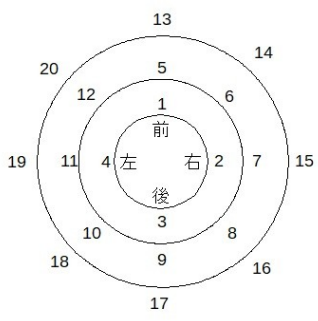
そういう事なら…、早速身体から調べてみつか♪

ほーら、万歳しな？

(身体を服の上から触られる音)

ふーん…、意外と筋肉付いてんね…。

って、今は関係ねーか…。



(位置一から二へゆっくり移動しながら／有声音／かなり小声)
えーっと…、ふむ…、こっちには特に気になる様な所はなし…。

(位置二／有声音／かなり小声)

あ、こーらっ。

くすぐったくても暴れちゃダメじゃん。

協力してくれるっつたろー？

んじゃあジッとしてな。

直ぐ終わっからさ♪

(位置二から三へゆっくり移動しながら／有声音／かなり小声)

そうそう…、もう少しの辛抱、辛抱♪

(位置三／有声音／かなり小声)

最後にこっちだなー…。

えーっと…。

ダメかー…。

何もなし。

(位置三から一へ移動しながら／有声音／かなり小声)

まあそう簡単に分かったら苦労しないわ…。

(位置一／有声音／かなり小声)

へ？

何？

協力した対価…？

は？

何言ってるの？

そんなの聞いてねえし。

そりゃ、対価を払わないとも言ってるねえけど…。

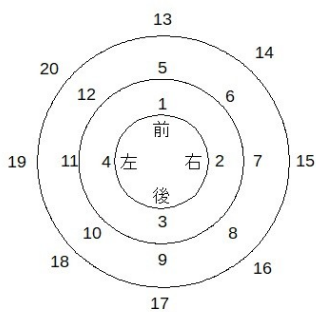
ちくしょう…、一杯食わされた気分だわ…。

ったく仕方ねーな。

何がイイんだ？

おう、ジッとしてればイイんだな？

(ナナリーの耳を触る音)



(くすぐったい演技)

ひゃっ！

あははっ…！

ちよっ、待つ…。

耳は…ダメ…。

んんっ…！

くすぐった…、あはっ…！

待て…、待てって！

ストローツプ！

(ここまでくすぐったい演技)

(息を整える) はあ…、はあ…。

君さ…、耳が弱いつて分かってて触ったつしよ…。

やーっぱり…。

あのね、君…。

この状況、分かってる？

君は今、追放された身とは言え、ダークエルフの家(いえ)に居るの。

つまり、君が無事に家に帰れるかどうかは、ナナっちにかかってんだかね？

そう、余り舐めた事すつと、流石にただでは済まさない。

(トーンを落として) 人間ごときが…。

(また耳を触られてくすぐったい演技)

ひゃうっ！

分かった…、あはっ…！

訂正…、ぷふっ…！

訂正する…、から…、待つ…！

(ここまでくすぐったい演技)

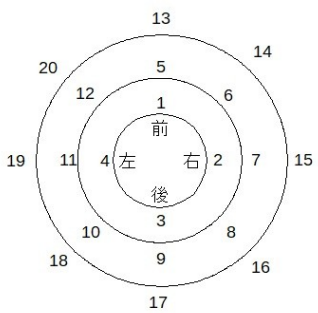
(息を整える) はあ…、はあ…。

もうっ！

君だけズルいつ！

へ？

同じ事をしただけ？



あ…、そっか…。

君もくすぐったがってた…。

でもさ、何かヤダ…。

負けた気がする…。

てか負けてる…、人間に…。

人間にこんな惨めな目に遭わされるのは…、初めて…。

悔しい…。

あ、そうだ。

別にダークエルフだけが、耳が弱いつてワケじゃなくね？

(ナナリーに耳を触られる)

やーっぱりっ♪

君も弱いんじゃない♪

だって、身をよじらせてるんだもん♪

分っかりやすい♪

ほれ…。

ほれほれ…。

ふふっ♪

こうなっちゃうと君も可愛いじゃん♪

(一端耳から手を離す)

へ？

もっと続けて欲しいのか？

イイけど…。

(もう一度ナナリーに耳を触られる)

あれ？

なんかご褒美的な事になってね？

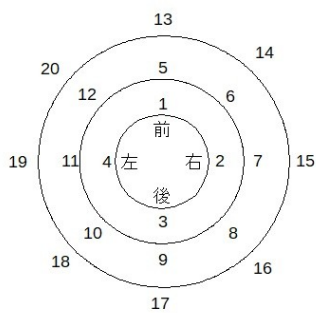
違う？

ホントか？

まあいいや。

なーんか楽しくなってきたし♪

ほーれ…。



ほーれ…。

あはっ♪

そんなにくすぐりたいのか？

え？

気持ち…イイ…？

はあ…？

キモ…。

そういう事なら止（や）めっけど？

嘘って何だよ…。

ったく…。

くすぐりたいとか気持ちイイとかはもうどうでもいいや。

見てるの楽しいし♪

って事でー、続けるぞー♪

おりゃ…。

おりゃ…。

ほーれ…。

ほーれ…。

あはっ♪

ここか？

そっかー、ここがイインだな？

闇魔法が効かねえ原因はまだ分かんねえけど、弱点は見つけたぞつと♪

さーわ…。

さーわ…。

こーしよ…。

こーしよ…。

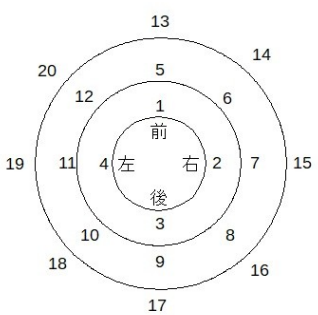
あつ、そっだ♪

にひっ♪

ナナっち、イイ事思い付いちやったー♪

（ハンドクリームを取り出す音）

えーつと…。



あ、あったあった。

これ使ったらさ、もっと気持ちいいんじゃない？

ナナっちがいつも使ってる、ハンドクリーム♪

乙女の必需品っしょ♪

あ、今「乙女」って言葉で笑わなかった？

ひでーなー。

ナナっちだって女子なんだかんナツ。

肌の手入れくらいするっつーの。

んじゃあこれでやってみんぞ♪

(ハンドクリームを手に取り伸ばす音)

いい香りっしょ♪

桃と薔薇の香りなんだよねー♪

この香りが好きで、買ってみたんだー。

ってなワケで、いくぞー♪

ほれっ♪

(耳をマッサージする音)

どう？

そっか気持ちいいか…。

ってかさ、仕返しするつもりが、完全にご褒美になってるな？

ん？

あー、確かに…。

ナナっちが手を止(と)めればいいだけっつーのは、間違ってるね…。

でもさ、君が気持ちよさそうな顔してっから、なんだか止(や)めらんなくてさ。

なんだよ。

ギャルのくせに？

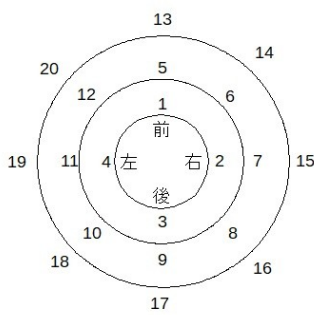
あー、それ結構傷付く言い方だぞ。

ったりめーじゃん。

ギャルだからーとか、ダークエルフだからーとか、そういうのを偏見って言うんだぞ。

まあダークエルフってのは、非日常過ぎて、ちょっと違うかもただけど…。

え？



ゲームで見慣れてる？

それさー、学校でも言ってたよな。

だからって、そんなに冷静で居られるの、ちょっと怖いんだけど？

うーん、例えばさ、異種族…、ここはエルフ族って事にしようか。

ナナっちの目の前にエルフが居たら、一触即発だぞ？

そう。

ダークエルフ族とエルフ族は、相容れない種族なワケ。

その辺の事はゲームでも出てくんじゃねえの？

だろ？

で、そうなたら…、そうだな、魔法で決闘…、何て事になるかも。

見てみたい？

(ため息) はあ…。

あなの、ダークエルフの闇魔法は、幻覚作用を起こすだけじゃねえんだぞ？

建物の一つや二つ、簡単に吹き飛ばせるんだかな？

エルフだってそうだ。

認めたくねえけど、あいつらの風魔法は、結構強力なの。

それがぶつかり合ってみろ。

下手したら、街ごと消滅…、何て事に成りかねえ…。

どうだ。

やべえっしょ。

って、何で目をキラキラさせてんのさ。

ったく、分かってねえな…。

君の家も、消し飛ばかもしんねーって話、してんだけど？

それでも見てみたいか？

うん…、って…。

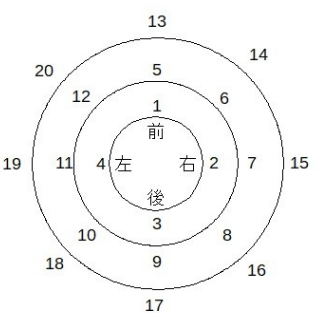
呆れた…。

君、ハッキリ言って、普通じゃない。

異常。

街一個で済めばいいけど、下手したら種族間の戦争に…。

(閃いたという感じで) はっ！



そっか…。

君のそういう所に、闇魔法が効かない理由があんのかも。
なにをぽかんとしてんのさ。

君のそういう人間性のなさ…。

つまり、心の根っこが死んでるヤツだからなのかも、って言うてんの。
成程ねー。

少し分かってきたかも。

真相に一步近付いた感じ。

でも納得いかなー。

だってナナっちの魔力に人間ごときが耐えられるなんて、

相当こじらせてるって事じゃん？

君、心の闇…、深そう…。

っと、ハンドクリームが乾いてきちまったな。

んじゃあ終わろっか。

おう、どういたしまして。

ん？

なんで礼を言われてんだ？

なんかモニヨるなー。

まあいつか…。

4…転校生は世話焼き（ナナリーの部屋／放課後の夕方）

（位置5／有声音／小声）

あー、こちら。

そんな指で耳ほじくったらダメだろ。

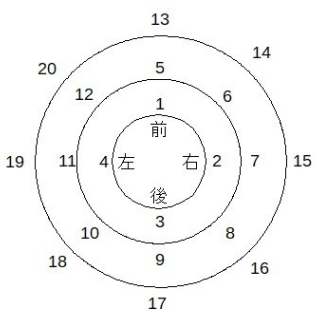
なんでって…。

爪で皮膚に傷が付いたら、炎症起こしたりするんだぞ？
なに、どうした？

マッサージした効果で耳の中が痒い…？

あー、分かるわ。

ムズムズすんだよな？



うーん…、仕方ねえな。
よっしゃ、耳かきしてやんよ。
何ビックリしてんのさ。

あ、ナナっちの優しさに、ときめいちゃった…、とか？

へ？

違う？

じゃあなんだよ。

うん…。

うんうん…。

あのな、いくら耳が弱いとはいえ、ダークエルフだって耳かきするんだぞ？
その代わり、人間が使ってる様な耳かき棒は刺激が強すぎるからさ、これ。

綿棒♪

これを使ってんだよねー♪

(威圧) あ？

今なんつった？

ダークエルフのくせに耳掃除？

そう言わなかったか？

やっぱり…。

あのな…、ナナっちが手出ししないからって、調子に乗り過ぎ。

まあ今それはいいや。

ほら、掃除してやつから、横になりな？

どこって、ここだよ。

膝枕。

おーい、頭の上に疑問符が浮かんでんぞー。

もしかして、恥ずかしい…、とか？

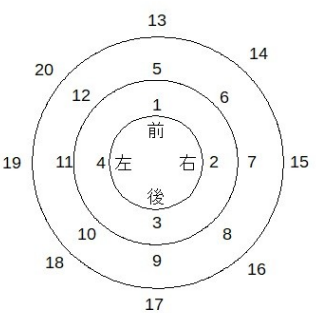
え、むしろ嬉しい…？

なんだそれ。

つまんねえ。

もういいや。

さっさと横になりな？



(膝に寝転がる音)

(位置〰有声音／かなり小声)

なあ君さ。

無事に家へ帰りたいなら、あんまりふざけた事、言わない方がいいぞ。

なんだよ。

なにか言いたそうじゃん。

ナナっちならそんな事しない…？

なっ…。

なんで言い切れるのさっ。

根は…、優しい…？

バツカっ…。

そんなワケねえじゃんっ。

ダークエルフだぞ？

こんな人間界…。

下等な種族の世界で、優しいなんか見せるワケねえだろうっ。

ナナっちはな、これでも同年代では魔力が強い方なんだかな？

へ？

何歳か？

あ、乙女にそういう事、聞いちゃう？

なんてね。

まあ今更って感じだし、教えてやつけど、笑うなよ？

今年で百十五(二五)歳…。

あれ？

笑わないんだ。

ゲームで慣れてる…？

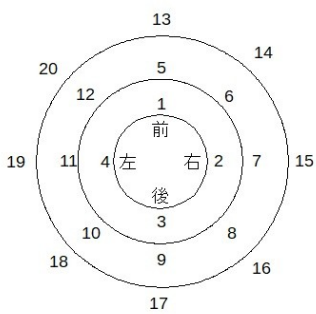
あのさ…、今朝からずっと、ゲーム、ゲームって…、君、どれだけ好きなんだよ…。

まあ人間と歳の取り方はちげえけど、見た目はほら、この通り。

大体十七歳って感じだろ？

な？

とは言っても、闇魔法の幻覚作用で、見た目はどうとでもなるんだけどな…。



でもさ、やっぱり人間界に溶け込むなら、

見た目くらい同じ年代の子達と過ごしたいじゃん？

そう。

あー…、でも一つ問題があつてさ。

ナナっち、読む事と話す事は出来るんだけど、まだ書く事が出来なくて…。

んで、今心配なのが、字が書けなくて、クラスメイトに怪しまれるんじゃないかって事。

まあ見た目がこんなギャルだからさ、キャラで押し通せつかなくとも思つてんだけど。

でも流石に平仮名も満足に書けねえのはマズいっしょ。

でしょ？

だから困つてゐるってワケ。

(自慢気に)

まあ？

こつ見えてもナナっち頭いいから？

覚えようと思えば直ぐなんだけど？

(ここまで自慢気に)

意外ってなんだよ…。

言つたら？

魔力が強いつて。

闇魔法の中には、異種族の言語を変換出来るモノもあつてね。

そう。

だってさ、いつ異種族との争いに巻き込まれるか分かんねえじゃん。

そうだった時のために、言語を理解する術(すべ)は欠かせないってワケ。

そんなワケで、人間界の…、ここ、日本っていう国らしいな？

日本語も一週間で話せるようになったし、読める様になったんだー。

どう？

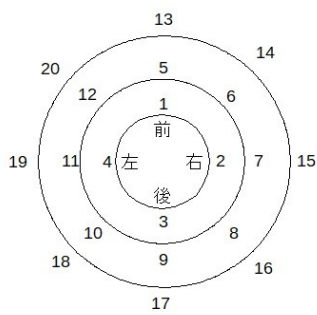
すげえっしょ？

ゲームなら最初から言葉が通じる…？

あんな…、いい加減ゲームから離れろよ…。

ここはゲームみたいな仮想空間じゃなくて、現実、リアルなの。

へ？



書く事…？

そっだよ。

さっき言った通り…、書けねえ…。

んだよ。

バカにしてんのか？

は？

教えて…くれる…？

君が…？

へえ…、イイとこあんじゃん…。

あ、そっだな。

返事…、返事…。

あー…、えーつと…、その…、お願いします…。

(**眩く様に**) なんだよ…、急に優しくなって…、ズルいじゃん…。

んじゃあさ、早速この後、教えてくんない？

取り敢えず…、そっだな…、ナナっちの名前から。

そう、上手く書ける様になりたいっ。

オッケー、じゃあよろしく頼むわ。

おっしや、こっちはお終い。

最後にふーってして反対側やるぞー。

(**耳ふー**) ふー…。

もう一回…。

(**耳ふー**) ふー…、ふー…。

おまけでもう一回だ♪

(**耳ふー**) ふっふっふっ…。

オッケー。

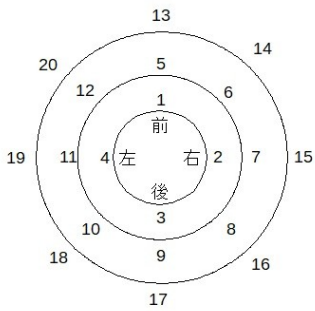
次は反対やつから、寝返りしな♪

(寝返りの音)

(**位置**／**有声音**／**かなり小声**)

おーし、こっちもやっていくぞー♪

そう言えばさ、ナナっちの書く文字、今朝の自己紹介で見たっしょ？



そう。

丁寧に書いて、あれが限界…。

正直恥ずかしいっつか、惨めっつか…。

うん…、だからしっかりと勉強したい…。

おう、よろしく頼むわ…。

んだよこの空気…。

気マズいじゃん…。

なんっつか、変な感じ…。

は？

(慌てた様に)

バ、バツカじゃねーのっ？

人間なんかに恋するわけねーだろうっ！

ふじゃ…、ふざけんなよっ！

(ここまで慌てた様に)

はあ？

噛んでねえし？

噛んでませんー、知りませんー。

あ、いいの？

あんまり突っかかってくつと、綿棒ぶっ指すよ？

へ？

お願いしますって…。

DMかよ…。

はあ？

ご褒美…？

マジ、キモい…。

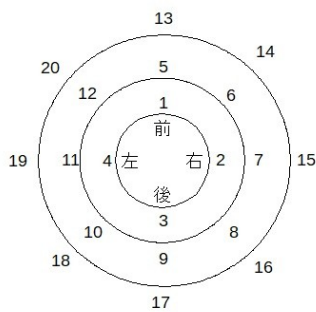
ただキモいだけじゃねえ。

ドン引きする程だわ…。

もうさー、耳掃除止(や)めてもいいか？

だってさ、君、怖いだもん。

そもそも、闇魔法が効かない事自体、あり得ないんだかな？



その上、ナナっちが、人間ごときに恐怖する…、だなんて、相当だぞ…。
それが今、ナナっちの膝の上に居ると思うと、胸騒ぎがするわ…。
だから恋じゃねえつつってんだろっ！

(少しイラついた感じで) いい加減にしろよ…。

(嘆く様に) もー最悪…。

君のせいで、こっちの世界での再スタートが台無し…。

だってそうじゃん。

君に闇魔法が効いてれば、今頃こんな事にはなってなかっただろうし。

ったりめえじゃん。

こうなってなかったら、今頃新しく出来た友達と自撮り見せ合ったり、

カラオケ行ったり…。

思い描いてた事が、ゼーんぶ台無しっ！

だから最悪なワケ。

まあでも？

ナナっちポジティブだから？

この逆境でも楽しんじゃうんだもんね♪

は？

ナナっちもM？

何言ってるの？

そんなワケねえし。

しーりーまーせーんー。

ん？

待って。

ナナっち「も」って言ったよな？

つまり君は、Mだって認めたって事でオツケー？

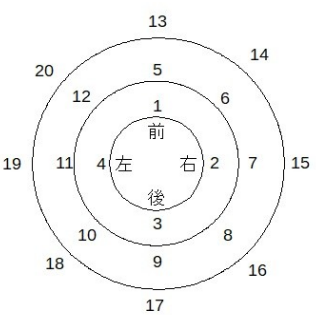
何？

ドM紳士…？

何それ…。

よく分かんねーけど、Mなんだな？

ふーん…、そっか。



じゃあさ、ナナっちの口調とか態度とか、嫌いじゃないって事…？
は…？

好き…？

バカっ！

今日会ったばかりなのに、好きって何だよっ！

へ…？

あ…、そっちの好きじゃない…？

そっか…、そうなんだ…。

って、なんでナナっちが残念がってたんだよっ！

いけね…、ついセルフツッコミしちゃった…。

(咳払い) う、うんっ。

えーっと…、つまりその…、ここまで君が冷静で居られたのは、ギャルが好きって事？

へえ…、そうなんだ…。

でもよ、ダークエルフだぞ？

あー、言わなくてもいいよ。

ゲームでーって言うんだろ？

まあそれが真実かどうかは怪しいけどな。

ったりめえじゃん。

ナナっちは君の秘密を調べて、突き止めてみせるつったろ…。

君の言ってる事を鵜呑みにするワケにはいかねーの。

あと、調査の事、忘れてもらっちゃ困るんだけど？

もしかして…、忘れてた…、とか？

うーわ、やっぱり…。

(ため息) はあ…。

先が思いやられるわ…。

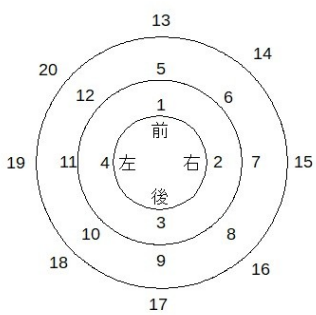
ほら、こっちももうそろそろ終わるぞー。

耳にふーってすっから。

(耳ふー) ふー…。

もう一回…。

(耳ふー) ふー…、ふー…。



最後にもう一回だ♪

(耳ふー) ふっふっふっー…。

おーし、終わりっ。

起き上がっていいぞー。

…。

…。

なあ。

起き上がっていいつつってんじゃん…。

なんで動かねえの？

このままがいい？

あのさ、かんっぜんにナナっちの事、舐めてるよね…？

それにさ、文字を書くの教えてくれるつつたじゃん。

それも忘れたワケ？

もうちよつとあと？

もうちよつとってどんだけよ。

さあって…。

この…。

(呟く様に)

ム・カ・つ・くー…。

でも待てよ…？

追放された身として、こんな上手い話、中々ねえんだよなー。

こいつの秘密…、暴きたい…。

そっだよな。

闇魔法が効かない理由を調べるには、仲良くしといた方がイイな…。

ここは我慢…、我慢…。

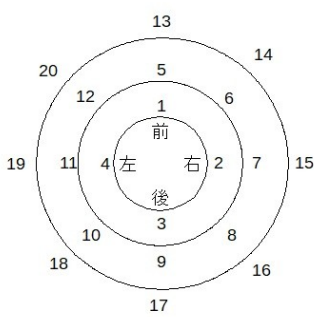
(ここまで呟く様に)

な、なあ…、君さ、このまま寝ちゃってもいいぞ♪

それと、もしよかったら、晩メシも食べていきなよ♪

何なら泊っていくか？

お？



どうした？

急に黙っちゃって♪

もーしかーしてー♪

照れてるとか？

どうなんだよー？

おーい♪

って、もう寝てんじゃんっ！

こ・い・っ…。

(怒りを押し殺す様に) もーっ…！